中国における医療クラスター

自治医科大学　地域医療政策部門
准教授
大嶽　浩司
2011年11月21日

Summary

- 専門職人材育成を通じた中国との連携が、将来的に日本の医療を活性化させると考え、帝京大学では中国との連携の道を探っている
- 具体的には、①年間1万件の心臓手術を行う北京の病院との学術連携、②セカンドティアの都市で展開する病院グループにおける医療進出、人材育成のイニシアチブが動き始めた
- 北京のトップの病院においては、今夏単独で40カ国3000人の集まるChina Heart Forumを開催するほどの規模を持ち、それぞれの病院において、世界のトップ医師・研究者の招聘が行われている
- セカンドティアにおいても臨床のアクティビティは非常に高く、医療と連携した街づくりが進んでいる
- 中国の病院事業の特色はいかにProfitableであっても結局資産価値は不動産の値上がりに左右されるところにある

中国富裕層対象のメディカルツーリズムが注目されているが・・・

メディカルツーリズムの前提

- 中国の富裕層は、中国の医療に満足していない
- 中国の医療に比して、日本の医療は進んでいる
- 日本には中国富裕層が注目する医療以外の観光資源がある

日本側へのメリット

- 不景気な日本に対し、経済が上向きにある中国人富裕層が日本の観光・医療業界を活性化させる
- 健康診断にフォーカスすることで、日本の保険診療の問題点（混合診療が出来ない、過剰な平等手技）に触れずに医療業界の収益を増やすことが出来る
- 過剰な設備投資の産物である、大型医療機器のアイドルタイムを減らせる

亀田病院ーJTB連合　西台クリニック　聖路加病院
南東北医療クリニック　聖授会病院

- **2009年度の外国人観光客の総数680万人、うち中国人100万人。これを2020年までに3000万人にするという観光庁の試算には無理があるのではないか**
- **また、GDP2位となった中国の医療レベルが日本を超えるのはそう遠くないと考えられ、現にPET-CTを除くと、さほど現状で既に設備には差がない**
- **中国富裕層をターゲットにしているのは、日本だけでなく韓国、タイ、シンガポール、インドなど多岐にわたり、MBA取得者、大手企業管理職など経営陣の資質は日本を凌駕する**

将来を見据えると、中国で人材育成連携を行うべき

アメリカの教育成功例

- ハーバード、イエール、カリフォルニア大学など、そもそも外国人、マイノリティを優先的に入学させ、成功している

アメリカの医療成功例

- 多数の知的層の移民は医療系など資格を取るため、病院職員は、その街より多国籍

オーストラリアの医療成功例

- オーストラリアの学会は、NZ、シンガポール、マレーシア、香港と連携が強く、優秀な人材が流動的に動く

日本の向かうべき方向性の仮説と日本の医療機関が中国に医療進出する意義

将来は、国内の医療・介護系分野の人員が不足

↓

医療・介護系人材育成における中国を含むアジアとの連携は不可欠だが、現在はどの医療系大学も必要性を認識しつつも中国進出を行っていない

↓

日本の大学病院が、中国で医療を行うことで、「日本＝高度先進医療」というイメージを中国内に作りあげることができる

↓

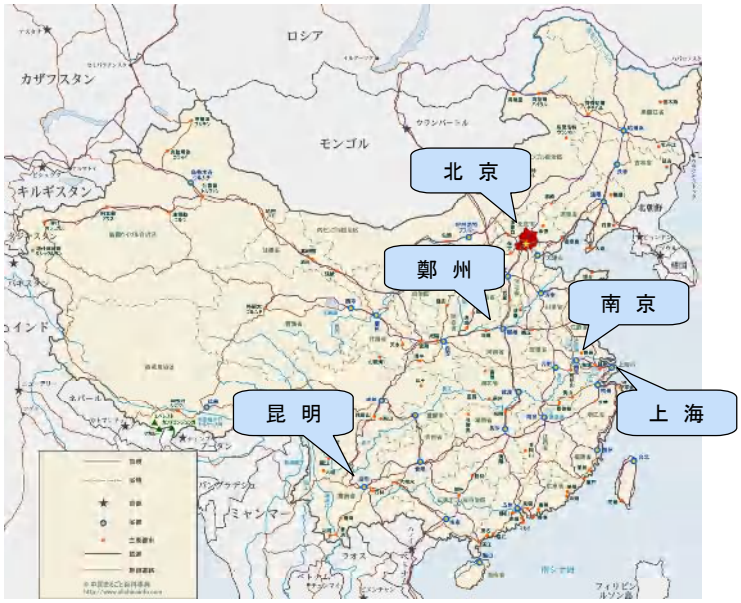
ブランド力がつけば、優秀な中国人人材を確保し、国内で育成を行うことができる。

- **少子化が進む日本において優秀な人材を国内医療界に確保するには、高度医療で中国に早期進出してアジアにおける国際ブランド力をつけるべき**

中国の医療の特徴（雑感）

- 人数規模の大きさは世界に比類無い
  - ➢センター化されている上、そもそも人口が多い
- トップ病院における質（とりあえずの）は高い
  - ➢一部日本人医師のArtistic senseには及ばない
- トップ病院では、設備は一応そろっている。一方で、管理・メンテナンス、院内物流などに発展の余地あり
- VIP病棟をほぼ確実に持っているが、日本人の目から見るとそのサービスの質はいずれも高くない
- 地方と中央との格差が大きい
  - ➢北京と南京・昆明の落差
- トレイニーはハングリーである一方、一般の雇用者は決められたことしかしない

われわれが視察した場所



現在はまだ日本の医療の注目度は高い

帝京が視察をしただけで雲南日報に掲載

日本帝京大学向昆明同仁医院表达强烈合作意愿——

把世界一流的医疗技术带到云南

2011年6月29日，昆明同仁医院迎来了一批特殊的客人——来自日本知名综合性私立大学帝京大学的考察团队。这是继北京同仁医院之后，他们考察的第二个"同仁品牌系"医院。双方交流后认为，未来合作前景将非常好。

帝京大学理事长仲永佳史一行，首先参观了昆明同仁医院的诊疗环境和配套设施，对其以人为本的理念称赞有加；之后，听取了副院长段志聪讲解昆明同仁医院的基本情况、优势学科和特色医疗服务等。交流中，日本帝京大学多次表达了深度合作和交流的意向——"我们愿意尽最大的努力，把世界一流的医疗技术带到中国，造福云南，造福民间。"

帝京大学医学院专家表示，在日本，肠癌和前列腺癌的发病率较高；而该大学附属医院在攻克上述两疾的技术、设备方面，具有国际领先的水平，比如用内窥镜或者"达芬奇机器人"进行肠癌切除手术，"手术时将拥有了超常立体、超常放大的"视力"，还有无比灵巧的手臂"。当然，在借鉴这些先进手段的同时，还将充分考虑中国乃至云南的实际情况和患者的接受能力。

昆明同仁医院也介绍了自己的优势学科，包括来自同仁品牌下"原汁原味"的优势科目，如眼科、耳鼻喉、头颈外科、呼吸睡眠中心等；也包括"地方智慧"锻造的新的昆明同仁品牌学科，如心血管内科、心血管外科等。

"参观了昆明同仁医院后，感触最深的就是医护人员处处可见细心的关怀。我们相信如果有机会在这里工作，一定非常喜欢和适应。相同的理念将支持着我们一同成长。"帝京大学考察代表提出，希望尽快寻求一个合作发展方案。

双方一致认为，交流合作将从至少从三个方面进行：人力资源、知识技术、仪器设备。在人才交流上，可以进行医生、护士互访，或者吸纳对方员工培训、见习等，在此过程中充分激励人才，促进医院的良性发展。

昆明同仁医院的段志聪副院长也表示，在同仁医疗产业集团的战略支持下，昆明同仁愿意全力配合双方的合作交流。"目前，国内医药卫生体制改革更进一步深化，医疗事业的开放度将愈加膨胀。在这样的'天时'中，又恰逢同仁医疗集团的全国战略布局的'地利'，相信双方合作前景将非常好。"

"现在的中国，从来不缺乏市场和机遇，缺的是优质的人才和技术。"段志聪热情洋溢地对这些远道而来的日本朋友说。

本报记者 刘 艳

日本帝京大学考察代表与昆明同仁医院工作人员合影

■医讯快报

远水也能解近渴

疑难眼病患者可原受北京专家诊疗服务

记者近日从昆明同仁医院获悉，北京同仁医院眼科专家已奔赴昆明，为云南百姓诊疗疑难杂症。患者无需远赴北京，即可享受北京同仁眼科专家的优质服务。

昆明同仁医院作为北京同仁医院在云南投资的大型综合医院，秉承北京同仁医院眼科的在全国眼科的技术领先优势。昆明同仁医院的眼科专家，均来自北京同仁医院，从而发扬同仁眼科的技术优势。

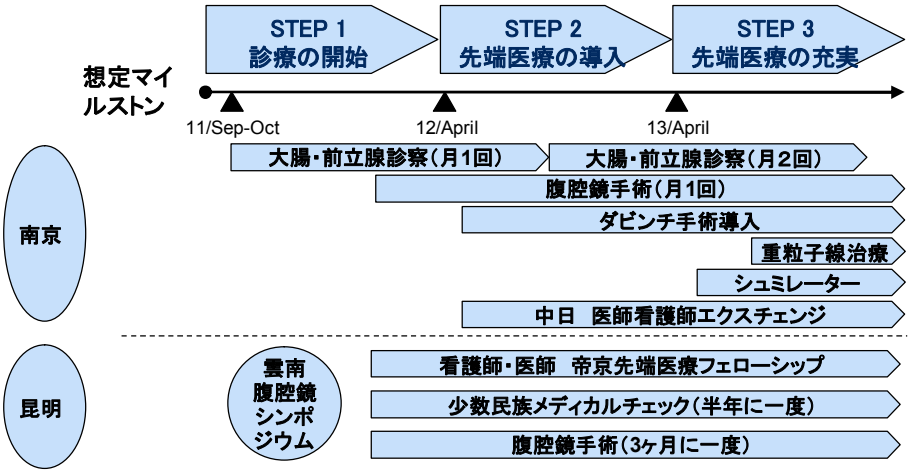
据了解，专家团队包括：北京同仁医院白内障中心主任，全国白内障专家张惠象教授，其从事白内障基础与临床研究多年，完成各种类型白内障手术10万余例，多次在国际高规格白内障会议上进行手术交流和手术表演，对各种疑难性白内障手术有丰富的经验；北京同仁医院眼科副主任，全国知名眼底病专家刘武博士，其多年从事眼底病相关的临床医疗、教学和研究工作，在玻璃体、视网膜、视神经疾患等方面有丰富的临床经验；另外，北京同仁医院眼科青光眼、角膜病专家李纳，现任昆明同仁医院眼科首席专家，其作为留美眼科学博士，曾多次赴外进行学术访问和交流，长期在欧美等国进行眼科专业的治疗实践和研究。擅长于各种类型的眼表疾病、角膜病和眼底疾病的诊断治疗，尤其对青光眼、角膜病、白内障超声乳化及人工晶体植入、泪囊病和斜视弱视等眼表治疗有独特建树。

中国と帝京連携のミッション

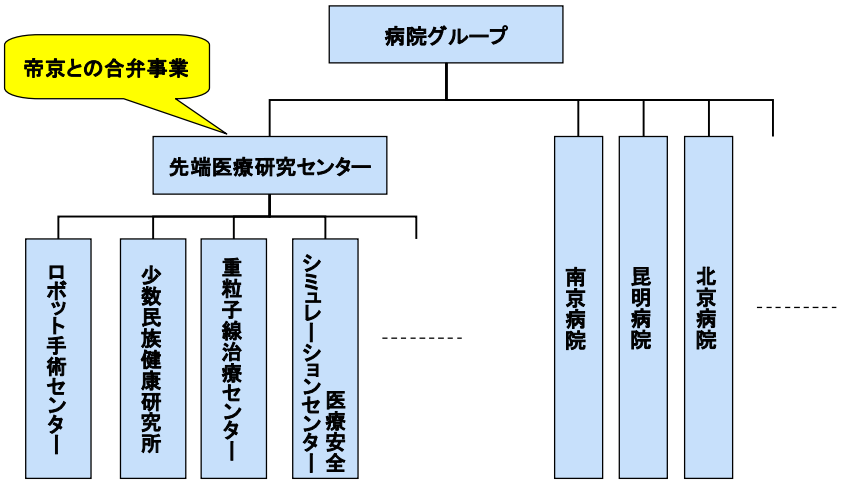
我々の目指すべきもの

- 日本の医療者の持つ優れたソフトスキルを成長力の高い中国市場へ導入し、将来のアジアをリードする医療人材を育成する
- 日本の先進医療機器を、日本の医療者が臨床の現場で使いながら、中国マーケットへの導入を図り、恒常的に定着できるよう中国人医師・技師・看護師を育てる
- 中国の看護学生に日本の医療・看護を学び、働く機会を提供し、日本・中国どちらでも指導者となれる看護人材を育成する

中国と帝京の連携タイムライン



先端医療研究センターの想定図



新しい合弁事業は柔軟に発展できるよう外出しにする

これまでの経緯と今後のプラン（参考までに・・）

	北京心臓外科病院	地方都市病院	
経緯	'10 Oct 北京訪問 '10 Oct MOU締結 '11 Jan 第1回シンポ打ち合わせ '11 Apr 第1回シンポ延期 '11 Aug 第1回シンポ開催（北京） '12 Apr 第2回シンポ開催予定（日本）	'10-11 CEOと数回会食 '10 Dec 香港にて合意形成 '11 Mar 病院訪問延期 '11 Jun 病院訪問 '11 Aug 上海会合 '11 Sep 北京で合意 '11 Dec 最初の診療開始予定	非常に時間がかかる！
今後	•資金は'11 Feb以降はスポンサーを募り、自走 •シンポ内容を冊子にして、対外的に広報 •学術交流を推し進める •外国人研修受け入れ施設の準備が必要	•連携の合意形成を行う •組織立て、契約条項、ライセンスなどを整理 •適切なエージェントは誰？	

医療人材育成連携に必要な国の施策

許認可関係

- 外国人患者が日本で治療を受けれるビザ
- 日本人医療者（医師・看護師・技師）が外国で医療を出来るよう現地国への働きかけ
- 外国人トレイニーが資格取得のために、日本で医療・看護・介護の教育・研修を受けられるビザ
- 外国人に対する私的医療保険の解禁、外国の医療保険との連携

補助金関係

- 外国人トレイニーが資格取得のために、日本で医療・看護・介護の教育・研修を受けられるための補助金（例：補助金をもらった年数プラス5年間、日本で働くと補助金を返さなくてよい）
- 外国人研修を受け入れる医療機関や学校が通訳や住居、保証人などを配するための費用の補助

Summary(再掲）

- 専門職人材育成を通じた中国との連携が、将来的に日本の医療を活性化させると考え、帝京大学では中国との連携の道を探っている
- 具体的には、①年間1万件の心臓手術を行う北京の病院との学術連携、②セカンドティアの都市で展開する病院グループにおける医療進出、人材育成のイニシアチブが動き始めた
- 北京のトップの病院においては、今夏単独で40カ国3000人の集まるChina Heart Forumを開催するほどの規模を持ち、それぞれの病院において、世界のトップ医師・研究者の招聘が行われている
- セカンドティアにおいても臨床のアクティビティは非常に高く、医療と連携した街づくりが進んでいる
- 中国の病院事業の特色はいかにProfitableであっても結局資産価値は不動産の値上がりに左右されるところにある

帝京大は、
中国で医療を行うべく
頑張って参ります。

ご静聴ありがとうございました

otake@teikyo-masui.jp